



大統領就任認証式

2013年6月14日（金）の第11期イラン大統領選挙で勝利した保守穏健派のロウハーニー師〔元 SNSC（国家安全保障最高会議）書記（米欧との核交渉責任者）〕が、8月3日、大統領就任宣誓式に臨んだ。テヘランにある宗教ホールで、軍高官、政府関係者、外国要人らが見守る中、最高指導者のハーメネイー師の承認を受け、イランの第7代大統領に就任した。任期は4年である。

ロウハーニー大統領は、国営テレビが放送した演説で、「私の政権は、経済の立て直しと世界との建設的な関係作りという軌道を進むことになるだろう」と述べ、「国益を土台にしたイランの地位向上と抑圧的な制裁の解除に向けて、抜本的な措置を取っていきたい」と語った。大統領認証式において、ハーメネイー最高指導者の肩に口づけをしたロウハーニー大統領は、続いて「過激路線ではなく、穏健路線こそが国民の幸福と発展を導く。孤立と経済制裁を終わらせるため、外交も新たな道を進む。国民を失望させない」と演説し、穏健路線を改めて強調、イランは「過激主義と距離を置き、法の支配を徹底するという国としての決意が必要だ」と述べた。

ハーメネイー最高指導者も「辛抱強く焦らずに政策を進めてほしい。ただ、我々には（米国などの）敵がいる。強く団結するべきだ」と述べた。

大統領就任宣誓式

8月4日、ロウハーニー大統領は、国会での就任宣誓式に臨んだ。

国会で50カ国以上の代表を前に就任の宣誓を行ったロウハーニー大統領は、演説で「国民は経済制裁に苦しんでいて、改革を望んでいる」と述べ、今後、イラン政府が他国との信頼関係の構築を目指して、対話を進める考えだと改めて示した。

また、「イラン国民は過激主義から決別した」とも述べ、核開発問題でこれまで見せてきた欧米諸国との対決姿勢からの方針転換もにじませた。「相互信頼と建設的な交流を築いて」緊張緩和への道を歩むとし、「イランは一度も世界と戦争をしようなどと考えたことはない」とも言明した。

西側諸国に対しては、イランと交流する唯一の手段は対話であって経済制裁ではないと呼びかけ、「もしイランから、適切な応えが欲しいなら、制裁ではなく、敬意を持って対話すべきだ」と述べ、核をめぐる交渉では制裁の緩和など、双方の歩み寄りが必要だとの考えを強調した。

また自身の目的は、ウラン濃縮活動の停止を拒否したために米国や欧州連合（EU）がイラン

に科した制裁によって「多大な経済的な圧力」に苦しむイラン国民の生活向上にあると語った。

国会への閣僚名簿提出

国会での就任宣誓式での演説の後、ロウハーニー大統領は、国会に新内閣の閣僚名簿を提出して、国会に信任を求めた。外相には、米国をよく知り、太いパイプを持つモハンマド＝ジャヴァード・ザリーフ（Mohammad Javad Zarif）元国連大使（注：元核交渉メンバー）が指名された。閣僚はほぼ男性で占められ、多くは、ロウハーニー大統領の助言者でもあるラフサンジャーニー元大統領に近い、経験豊かな実務者たちである。

外相に指名されたベテラン元外交官のザリーフ元国連大使は、1980年代以降に米国との交渉に携わってきた外交官で、米国のバイデン副大統領やヘーゲル国防長官にもよく知られる人物である。同元国連大使の起用については、ロウハーニー大統領が、米国との関係改善を望んでいることの表れと見られている。

閣僚名簿にはその他、米ジョージ・ワシントン大学で経済学の博士号を取得し、米国の永住資格を持つモハンマド・ネハーヴァンディヤーン（Mohammad Nahavandian）の名もあり、経済政策の調整で中心的な役割を果たすと見られる。

国会での閣僚名簿の審議は、8月12日にも始まる見通しだが、国会では保守強硬派が多数を占めており、保守穏健派のロウハーニー大統領が目指す組閣ができるか否かが、最初の関門となる。

人事に関する報道

ザリーフ元国連の外相起用に、イランのメディアの間では、ロウハーニー大統領が核交渉を直接指揮できるよう、核交渉を外務省の所管に移すのではないかとの見方が強まっている。

穏健・原則主義派系のオピニオン誌で、ロウハーニー大統領の路線に沿う政治傾向の週刊誌である27日付『モサッラス（*Mosallas*）誌』は、核問題に関する所掌権限がSNSCから外務省へ移されるとの報道がいくらかなされているが、もしそうなれば、ザリーフ元国連大使が外務大臣になるだろうと報じていた。同誌は「もし核問題の所掌がSNSCから外務省に移されるとともに、ザリーフ元国連大使が外務大臣に着任した場合、現職のジャリーリー＝SNSC書記の後任は、被抑圧者財団（Bonyad-e Mostaz'afan va Janbazan）のモハンマド・フォル＝ザンデ総裁となろう。もし、核問題の所掌権限がSNSCから外務省へ移らず、以前と同様の方式にて問題が追跡されていく場合には、アリー＝アクバル・ヴェラーヤティー最高指導者外交顧問を核交渉チーム・メンバーに加え、SNSC書記に任命することを考えなければならないだろう」とも報じている。